



ポポフ選手と一緒にかけっこ in 文京区立大塚小学校 リオパラリンピック金メダリストと一緒に走ろう！

11月10日都内文京区立大塚小学校にて、リオパラリンピック陸上競技 走幅跳 T42（大腿切断）金メダリストのハインリッヒ ポポフ選手を迎え、小学児童を対象に「金メダリストと一緒にかけっこをしよう」という授業を行いました。

150名の全校児童と父兄関係者の盛大な拍手の中、ポポフ選手は体育館に迎えられ、先生が最初にメジャーを取り出しポポフ選手がリオで飛んだ6.7mを児童の前で再現しました。小さな体の小学児童にとってはこの飛距離はとてつもなく長く映ったのか、驚きと拍手の渦が体育館に響き渡りました。その後、ポポフ選手から「立ち止まらない勇気の大切さ」の講演が行われ、途中、舞台上で日常生活用義足からスポーツ用義足に履き替える場面では、義足を初めて目の当たりにした児童は体を乗り出して見っていました。

また、3年4年の児童52人を対象に運動場で体育の授業が行われました。ポポフ選手のトレーニングを実際に行ったり、全ての児童とかけっこをしました。笑顔でかけっこする児童を見て関係者も心に元気をいただいた一日となったようです。

この一日を通じてポポフ選手が児童に伝えた事は、ポポフ選手自らの体験から生まれた言葉でもあり、それは「あきらめずに笑顔でいることの大切さ」「親や先生が言っていることをしっかり聞いて行動することの大切さ」であり、共感や感銘とともに児童の心に納められました。

文京区民チャンネルYoutubeで紹介されました



再生：2分23秒～5分54秒



ポポフ選手の講演「立ち止まらない勇気の大切さ」

「骨肉腫を発症し9歳で左脚を切断後、スポーツを取り入れたリハビリを続け、脚がなくても努力すればパラリンピックのメダリストになれるんだ。」「リハビリの先生の言うことに耳を傾け、僕なりに勇気を持っていつも笑顔で前に向かっていくんだ。」「人生には辛いこともあるけど、笑顔でいることが大事。大人の言うことをよく聞き、お互い助け合い、素晴らしい人になってほしい。」そのように自らの体験を通じて児童に語りかけ、ポポフ選手の思いも児童の心に深く届いた授業となりました。



校庭に出てかけっこしよう(3・4年生52人)



みんな今日は僕が先生だよ！走るための体づくりの基礎トレーニングから始めるよ！



みんなで校庭を何周か走り、4人一組でポポフ選手と50m競走を全ての児童と行いました。

ポポフ選手と一緒に給食



かけっこが終わり、4年生のクラスの児童と一緒に給食をいただき、やっちょれソーラン(鳴子踊り)を児童が披露してくれました。

児童の感想

- ・ポポフ選手の金メダルに触れることもでき、重たく、そして音が鳴ることに、とても興奮しました。
- ・トップアスリートの技術や生き方を知る機会を持ててとても嬉しかった。
- ・障がいを持った人でも平等に走ることができたり、スポーツをすることができたりすることは凄いなあと思った。
- ・どうしたら、あんなにうまくなれるのか聞いてみると、「トレーニング！トレーニングを欠かさないと、そして自分自身が得意なことを見つけ努力しないとイケないね！」と教わりました。